



## 羽ばたけ！白衣の天使

(気仙沼保健福祉事務所)

昨年11月1日、気仙沼市医師会附属准看護学校において戴帽式が行われ、当保健福祉事務所からも山本雅伸所長が出席し、祝辞を贈りました。

戴帽式は、看護の道を志し、ふさわしいと認められた者へナースキャップが授与される式です。晴れて戴帽を認められた気仙沼市医師会附属准看護学校第61期生42名の皆さんは、看護の使命と責任を改めて感じられたことでしょう。

准看護学校生の皆さんはこれから臨地実習や資格試験などへチャレンジしていくことになりますが、看護業務を通して地域医療を担い、住民の皆さんの支えとなれるよう、心から期待します。



(決意を新たに地域医療の世界に  
羽ばたいてください)

## がん患者のケア等に関する研修会(がん患者が地域で生活するために、支援者が持つべき心構え～生きる力を支えるもの～)を開催しました

(気仙沼保健福祉事務所)

気仙沼圏域のがん治療の拠点となる気仙沼市立病院では、昨年から外来化学療法室の設置、緩和ケア外来やセカンドオピニオン外来等の様々ながん患者支援の取組がスタートしております。そのため、当

圏域において関係機関が共通の理解のもと、がん患者・家族の支援体制を構築していくことが非常に重要です。

その一助として、12月7日当所会議室において、東北大学病院がんセンター先進的包括医療推進室と当所の共催による「がん患者のケア等に関する研修会」を開催しました。

今回の研修会は、『どんな私たちであれば、よい援助者になるのか』をテーマに神奈川県で在宅医療に取り組まれているめぐみ在宅クリニック院長小澤竹俊氏からご講演をいただきました。

「がん患者さんの緩和ケアの経験をもとに、がん患者さんへの援助では、『相手の苦しみについて、キャッチする』、『相手の支えについて、キャッチする』、『どのような私たちであれば、相手の支えを強めることができるのかを知り、実践する』、『支えようとする私たちの支えを知る』ことが大切である。」とのお話がありました。

参加者の皆さんからも「相手の支えを見つけ、相手の支えをしっかりと強めることができる支援を行っていきたい。」との声も聞かれ、今後のがん患者さんへの支援に活かしていただけるものと感じています。



(講師の小澤竹俊先生)



(熱心に聴講する参加者の皆さん)



(販売内容等について視察しました)

### 農産物直売所等視察研修会を実施しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

1月21日に、気仙沼市及び南三陸町で農産物直売所の設置運営者を対象として、冬期間等の開業延長など運営向上を図るため、岩手県奥州市で直売所等を運営している農事組合法人いさわ産直センターあじさいへ視察研修を行いました。

当該法人は、ほ場整備事業を契機に直売所運営を始め、さらに構成員である女性農業者が出資して法人化し、直売施設等の建設、加工食品の製造販売や飲食店経営等を実践しています。

今回の視察研修では、これらの取組状況について法人役員の方から説明を受けるとともに、直売施設の視察及び食堂で地元食材による定食をいただきました。

参加者は、部門ごとの管理方法や直売施設の人的対応、野菜等の栽培等について質問するなど、活発な意見交換が行われました。

今後とも、当管内の直売施設において営業期間の延長や販売品目の拡大が図られるよう取り組みます。



(組織概要について受講しました)



(直売施設の様子)

### 「農業施策の見直しに関する研修会」を開催しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

平成26年度から実施される国の農業施策については、これまでのものが大幅に見直された上で実施されることになっています。そのため、気仙沼・本吉地域農林業振興協議会では、管内主要農業生産者及び関係者に対し、施策の見直しについて理解を深め、今後それらの施策が円滑に運用されることを目的として東北農政局の担当職員を講師として招き、1月22日に研修会を開催しました。

農業施策の見直しについては大きく3つの項目があり、担い手への農地集積を促進させるため新たに設置される「農地の中間管理機構の創設」、「米政策と経営所得安定対策の見直し」、農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動に支援される「日本型直接支払制度の創設」があります。

当日は、管内農業者及び関係機関担当者60名が参加し、質疑応答では多くの質問が出され、農業施策の見直し内容について参加者全員の理解を深めることができました。

今回の研修会を契機として、関係機関一体となっ

て新施策の普及・利用推進を図って行くことになって  
おります。



(東北農政局の担当職員から各制度の説明)

事業を活用することで、自社加工場の整備と新商品  
について開発中です。



(完成した菌床しいたけ生産施設)

### 南三陸町「菌床しいたけ生産施設」復旧工事が 完了しました

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

南三陸町は、管内有数の菌床しいたけ生産地で  
すが、東日本大震災による津波被害により、全ての  
生産団体が被災しました。その中でも特に被害が甚  
大であった株式会社椎彩杜について紹介します。

株式会社椎彩杜は、南三陸町内でも有数の菌床  
しいたけ生産団体ですが、東日本大震災による津波  
により、高台にあった一部栽培施設を除き、導入間も  
ない菌床ブロック製造施設も含め、生産施設の大部  
分が流出するなど甚大な被害を被りました。また、同  
社は、津波被害の他に福島第一原発事故を起因とし  
た放射能問題などの煽りを受け、地域の多くのしいた  
け生産者が廃業を余儀なくされる中、地域しいたけ  
産業復興の先駆者となり、良き先行事例として地域  
産業の復興を図りたいという熱い信念を持ち続けて  
おり、県としても復興基金を活用した平成23年度特  
用林産物生産施設早期再開支援事業により、流出し  
た施設の早期復旧に向けて支援を継続して参りまし  
た。

しかし、2重ローン、労務確保及び資材高騰等、解  
決しては新たな問題が発生するという状況が続き、事  
業開始から足かけ2年弱経過しましたが、辛うじて宮  
城県震災復興計画の「復旧期」内である1月15日に  
菌床しいたけ生産施設が完成しました。

今後としては、新施設による生産体制の安定化を  
図るとともに、6次産業化に向けて、キリン絆プロジェ  
クトや平成25年度アグリビジネス経営基盤強化整備



(オリジナル商品「椎茸かりんとう」)

### ガンカモ類生息数調査の結果

(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

今年も渡り鳥が飛来する季節になりました。県では、  
昭和44年から、ガンカモ類の生息数を調査しており  
ますが、当部としても1月16日に渡来最盛期の調査  
を実施しました。

当日は、県自然保護員の協力を得ながら、お伊勢  
浜など管内の31調査地で調査を行ったところ、カル  
ガモやオナガガモなど約2千羽が確認されました。

特に、管内では以前から希少種のコクガン(国指  
定天然記念物・絶滅危惧種Ⅱ類)が確認されてお  
りましたが、復旧工事がまだ行われていない船揚場等  
では、餌となる海藻等の藻場が広がり、そこを目当て  
とするコクガンが多数確認できました。

ただし、県全体のガンカモ類は、寒波の影響もあり  
過去3番目の飛来数となっているほか、ハクチョウ類  
は過去最高の生息数が確認されたことから、管内の  
生息数は決して多いとは言えないところです。

この理由としては、復興事業が本格化するにつれ

て、工事が各所で行われているため、鳥類の生息環境が悪化していることや、水辺の環境も震災前の状態までには回復していないことが挙げられます。

震災の影響により、管内にお住まいの方々の生活環境も落ち着いておりませんが、調査の結果、鳥類も同じような状況下にあることがわかりました。

宮城県は全国有数の渡り鳥の渡来県ですが、今後も調査を通じて、自然豊かな郷土づくりに努めてまいります。



(南三陸町で撮影したコクガン)

### リアス唐桑 新工場が完成しました

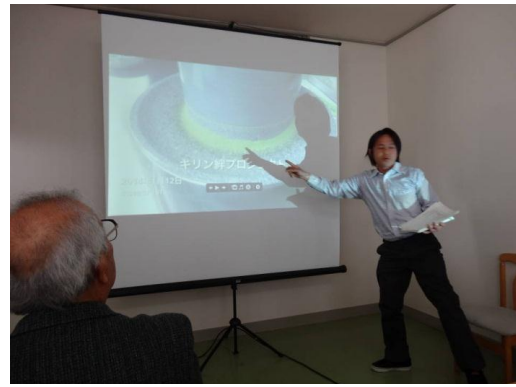
(気仙沼地方振興事務所 農林振興部)

1月30日、「リアス唐桑 食と地域の絆づくり協議会」が、気仙沼市唐桑町松圃に建設していた農産物加工施設が完成し、披露会が開催されました。

この農産物加工施設は、公益社団法人日本フィナンソロピー協会が公募していた「復興応援 キリン絆プロジェクト 農業復興支援 第Ⅱステージ」に採択されたことにより、建設することができました。

披露会の当日は、加工場建設までの経過が出席者へ報告され、加工場内部の視察会が行われたほか、唐桑地域でとれた鱈やワカメなどの海産物や、野菜を使った『はっと汁』、『和え物』、『お赤飯』が振る舞われました。

これから、「リアス唐桑 食と地域の絆づくり協議会」では、「大唐桑」を使った『ジャム』や『桑塩』、『リンゴ』を使った『リンゴチップス』など、唐桑地域の地域食材を使った農産物の6次産業化に取り組んでいくということです。



(事務局による経過説明)



(ジャムを製造する機械)



(大唐桑を製粉する石臼)



(リンゴチップス等を作る乾燥機)

## JA南三陸階上いちご部会出荷目揃会が 開催されました

(本吉農業改良センター)

12月13日気仙沼青果物流通市場で、JA南三陸階上いちご部会出荷目揃会が開催されました。全農みやぎ園芸部担当者から、県内の出荷状況について説明を受けた後、階上いちご部会の方と出荷規格についての確認作業を行いました。

普及センターでは、10月上旬から行っている生育調査結果と今後の管理についての報告を行いました。昨年は厳しい残暑の影響で、出荷開始が大幅に遅れてしまいましたが、今年度は花芽検鏡による適期定植が徹底され、昨年よりも2～3週間早い12月上旬の出荷出揃いとなりました。しかし、気仙沼市では、10月が寡照だったこともあり、草高は前年比1.1cmマイナスとやや低い草姿となっています(12月3日調査)。調査結果の報告後、今後の出荷規格の変更や草勢が落ちる厳冬期の管理方法も含め、部会員の方と関係機関で活発な意見交換が行われ、内容の充実した目揃会となりました。



(本格的な出荷が始まった「気仙沼いちご」)

## 地元産しょうがを題材に生産者と実需者との 意見交換会を開催しました

(本吉農業改良センター)

昨年12月18日に農家と実需者との間で、地元産しょうがをテーマに意見交換会を開催しました。

水産加工業者とレストランに収穫した新しょうがを提供し、調理されたしょうがの品々を食べながら、情報や意見を出し合ったところ、実需者の需要量や活用方法、希望する入荷形態等が明確になりました。また、収穫後の品質低下の対策として、早期の一次加工など、対処方法の提案があり、出席した農家は、地

元産しょうがの取り組みを展開するにあたり有用な情報を得た様子でした。

「作ったものを売る」プロダクトアウト型農業から、「実需者、消費者のニーズに対応する」マーケットイン農業への転換が求められる中、今回の意見交換会は、有意義な機会となりました。



(実需者との意見交換の様子)

## 「南三陸春告げやさい」の季節です

(本吉農業改良センター)

昨年12月から今月にかけて、「南三陸春告げやさい」の指導巡回を行っています。

露地栽培のちぢみほうれんそうは、10月の日照不足や台風の影響から、ほ場によっては生育の遅れが見られました。葉色が薄くなっている株もみられ、追肥を行うように指導しました。

施設栽培の春立ちなばな、アスパラ菜では、摘芯時期、摘葉作業を指導しました。特に、アスパラ菜は栽培者数が少ないため、生産者間の情報共有が難しい状況で、巡回による指導が不可欠です。

春告げやさいは、新規参入の生産者も加わり、今後の収量増が期待されます。



(アスパラ菜ほ場)



(ふきのとう)



(気仙沼・南三陸地域農業経営セミナーの様子)

## 平成 25 年度気仙沼・南三陸地域農業経営セミナー を開催しました

(本吉農業改良センター)

1月14日、本吉公民館で実践者から先進事例を学ぶため、普及センター及び管内関係機関が連携して「平成25年度気仙沼・南三陸地域農業経営セミナー」を開催しました。

これからは場整備事業により農地復旧する地区では、ほ場整備を契機に担い手の育成や組織的な取組で地域農業の再構築を進めていく必要があります。今回は、ほ場整備事業実行委員や認定農業者を中心に76名が参加しました。

講師に、農事組合法人ゆいっこ 代表理事 今野氏(石巻市)と農事組合法人かかの営農組合 代表理事 熊谷氏(登米市)の2人を迎えました。

今野氏は、管内と同様に津波で壊滅的な被害を受けましたが、周囲の支援を受け営農再開を果たしたこれまでの経緯などを紹介しました。

熊谷氏は、水稻と麦類や露地野菜の組み合わせで周年就労体系を実践している農業法人のリーダーとして、組織運営で心がけていることなどを紹介しました。

参加者は、これから農地復旧をスタートする地域の農業者が多く、今回のセミナーをきっかけに地域の担い手として地域農業の再建を進めていくことが期待されています。

## わかめの初入札会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 水産漁港部)

平成26年漁期宮城県産三陸わかめの初入札会が2月6日、宮城県漁協わかめ流通センター(気仙沼市波路上)において開催されました。今漁期のわかめは、低気圧による芽落ちやコツブムシによる幼芽の食害などにより、生育が全体的に遅れ気味でしたが、初入札会では、塩蔵わかめは、気仙沼地区の階上産を主として管内7地区から出荷され、数量は74.8t(前年比171%)、金額は31,306千円(前年比132%)、平均単価は419円/kg(前年比76%)となりました。栄養塩不足による色落ちや食害等によるキズが見られたことなどにより昨年に比べ単価が低くなったものとみられます。干しわかめは、すべて大島産で、数量は145kg(前年比41%)、金額は416千円(前年比63%)、平均単価は2,871円/kg(前年比153%)となりました。入札は、4月末まで計10回予定されています。これからは、小売店やスーパーなどで新物のわかめが多く販売されますので、皆さんもスーパーなどで三陸わかめを見かけましたら、肉厚で風味が良い三陸わかめを召し上がってみてはいかがでしょうか。



(わかめの見付けをする買受人の様子)



(セレモニーの様子)

### 気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014開催中です

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

1月18日から3月16日までの約2ヶ月間、気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014を開催しています。

これは、今年4月から6月まで開催される仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン2014～仙台・宮城春物語～を見据え、気仙沼市と南三陸町に観光客を呼び込み、当地域における観光客の域内流動を促進するため実施するもので、昨年度に続き、2回目の開催となります。

仮設商店街や観光案内所など9ヶ所にスタンプラリーの応募用紙とスタンプを設置していますので、応募用紙に、3ヶ所でスタンプを押して、郵送するだけでスタンプラリーに参加することができます。応募者の中から抽選で30名様に気仙沼市又は南三陸町の特産品をプレゼントします。

気仙沼・南三陸だよりをご覧になった皆様、是非、お知り合いの方にもお声がけください。



(気仙沼・南三陸復興スタンプラリー2014の応募用紙)

### 儲ける！商品づくり研修会が開催されました

(気仙沼地方振興事務所 地方振興部)

1月20日、気仙沼市内で「儲ける！商品づくり研修会」を開催しました。

この研修会は、「震災で失われた販路の回復・拡大」を目的に異業種交流団体リアス・アクティブ21等との共催により開催したもので、講師に元シャディ株式会社の社長で現在株式会社ゴールドボンド代表取締役の大平孝氏と公益財団法人みやぎ産業振興機構企画調整課長の田村敏宏氏をお招きしました。大平氏からは震災後の販路の変化や地域資源を活用した新商品の開発に関して講演が行われ、田村氏からは中小企業に対する支援策について説明がありました。

研修会には、水産加工業や宿泊業などに携わる経営者など約50人が参加し、市場動向を踏まえた商品開発の方法等を学び、今後の経営戦略の参考としていました。



(研修会の様子)